

学校法人神戸滋慶学園 姫路医療専門学校

令和3年度 第1回学校関係者評価委員会 議事録

1. 開催日時 2021年6月13日(日)13:00~14:30

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにオンライン(zoom)にて開催

2. 参加者
- | | |
|-------|-----------------------------|
| 正木 昭次 | 業界関係者(一般社団法人兵庫県臨床工学技士会理事) |
| 福本 直美 | 保護者代表(臨床工学技士科2年生保護者) |
| 瀬戸川 孝 | 高等学校関係者(元兵庫県立松陽高等学校校長) |
| 田中 種雄 | 地域関係者(姫路市城巽地区会長) |
| 大塚 将史 | 卒業生代表(医療法人英翔会 姫路愛和病院 作業療法士) |
| 浅沼 由紀 | 業界関係者(一般社団法人兵庫県作業療法士会第一副会長) |

※当日欠席、6/16(水)に別途ご報告、評価を頂いた。

学校側参加者

- | | |
|-------|------------------------------|
| 小川 恭一 | 姫路医療専門学校 校長 |
| 笠原由美子 | 姫路医療専門学校 事務局長 |
| 今在家信司 | 姫路医療専門学校 教務部長 |
| 竹内 美保 | 姫路医療専門学校 作業療法士科 学科長 |
| 今岡 康人 | 姫路医療専門学校 言語聴覚士科・言語聴覚士専科 部門長 |
| 平口昌広 | 姫路医療専門学校 言語聴覚士科・言語聴覚士専科 副学科長 |
| 小笠原徳有 | 姫路医療専門学校 臨床工学技士科 学科長 |

3. 内容

- (1)各委員の紹介
- (2)令和2年度の自己点検・自己評価結果の報告
- (3)質疑応答・講評

4. 令和2年度自己点検・自己評価結果報告

2020年度本校が実施した自己点検・自己評価の内容を下記10項目について項目毎に説明した後、各委員からの質疑応答、ご意見を頂き、評価をして頂いた。

1. 教育理念・目的・人材育成
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生募集と受入れ
8. 財務
9. 法令厳守
10. 社会貢献・地域貢献

※自己点検・学校関係者評価の結果参照

5. 質疑応答・講評

- 正木様:臨床実習を学内で実施したということだが、具体的にどのようにされたのですか。
 - 竹内:作業療法士科3年生は、コロナ禍により2回の臨床実習の内1回が学内実習となり、事例毎に評価、訓練、評価を実施しました。
 - 小笠原:臨床工学技士科では、通常6週間のうち3週間を学内で実施。手術室実習、医療機器安全管理等を実施しました。
 - 正木様:臨床実習に関しては、今年度も受け入れの厳しい状況が続くと思います。学内でも臨床実習と同じ内容が求められていると思います。
- 正木様:言語聴覚士専科で一昨年度国家試験不合格の学生が、昨年度合格したということだが、どのようなフォローをしたのですか。
 - 平口:学内模試やその結果のフィードバックと共に、授業の聴講参加と10月からは学校での対策勉強に取り組みました。また卒業サポート担当の教員を配置し、ZOOMによる面談も実施しました。
- 瀬戸川様:国家試験不合格者のフォローについて、働きながら受験を目指す卒業生に対策をしていくのは大変ではないですか。
 - 竹内:後半の半年間はしっかり国家試験勉強に充てられるよう現場にもご理解を頂けるようにしており、9月からはほぼ毎日学校での国家試験対策を実施する予定です。
- 正木様:就職率ほぼ100%と資料にありましたが全員が専門職ですか。
 - 笠原:就職希望者は全員専門職として就職しています。
- 正木様:入学前教育に力を入れておられるが、勉強の大変さを聞いて入学を辞退する人はいませんか。
 - 笠原:実態とそれを乗り越えるために必要なことの説明をしています。本人の夢を実現するモチベーションを育てていくようにしています。
- 田中様:資料から、学校のきめ細かな計画が一つひとつ確実に実行されていることが伺えます。これからより一層大事にしていかないといけないのは、学生と学校・教員との一体感と信頼感だと思います。日頃から学生と先生が会話を交わすことで信頼関係ができ、その学生に合った指導、学生の気持ちを汲んだ対応ができると思います。
- 田中様:素晴らしい理念や教育目標があるが、目に見える形で学生に伝えることが大切だと思います。校舎内で学生からよく見えるところに掲示して頂きたいと思います。また、卒業生への丁寧なケアを感じました。今後、卒業生に在校生へ学校の素晴らしさを伝える機会を設けてはいかがでしょうか。
- 正木様:メンタルヘルスケアについては、学生への支援が充実していると思います。教員への支援にはいかがですか。
 - 笠原:カウンセラーへの相談は、教員も対象としています。
- 正木様:進路に関して、4年制大学への編入は可能ですか。
 - 笠原:卒業時に3年制学科は専門士の称号を授与されているので、大学への編入は可能です。
- 田中様:一昨年は、城巽地区の行事に熱心に参加してくれた学生が多くいました。今年度も開催できれば是非協力してほしい。子育て支援など、地域の中で世代間交流を図っていければと思います。
- 大塚様:コロナ禍で授業や実習等はかなり変更になったが、学生に対しきめ細かに対応されていると感じています。海外研修に代わる別の手段として、海外で作業療法士として働かれた経験のある先生に授業していただいたことは、海外で学びたいという学生にとって大変勉強になったと思います。

- ・福本様:対面授業が減ったことで、オンライン授業の良さもあると感じました。対面授業が一番大切なことはわかりますし、今後も対面授業を多くとった上で、ハイブリット型、ハイフレックス型等取り入れることで、多様な授業スタイルが作れると、学生たちは充実した学校生活を送れるのではないかと感じます。コロナ過でも様々な授業のあり方が開発されてきたことはいいことだと思います。

6. 総括

- ・今在家教務部長:この3月全学科で卒業生を送り出すことができました。これからが学校として評価されることになるので、問題点を突き詰め、いただいた意見をしっかりと反映させていきたいと思っています。コロナ禍でエッセンシャルワーカーの育成には体験教育は必須で、人との関わりの中で学ぶ臨床実習の重要性をあらためて感じています。いつでもどこでもできる授業だけでは成り立ちません。出来ることと出来ないことを明確にし、対応していきたいと思っています。
- ・小川校長:開校から3年が経ち、無事卒業生を送り出しました。コロナ禍では実学教育を実行するのは難しいが、皆様にご協力頂けることは大変有難いと思います。今後とも宜しくお願いいたします。